

第1回 大河ドラマ「風林火山」をめくって 平成18年9月19日
講師/佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長 樋口 博さん 長野市産業振興部観光課長

第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日
講師/久米 えみさん ながのクラッセ会長 樋口 敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー

第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日
講師/篤沢 幸一さん アスレながの事務局長 室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事

第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日
講師/清水 隆史さん フォトグラファーほか 常盤 昭二さん CMディレクター

第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日
講師/虎羽里(トラバリ)セラさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト

第6回 環境と街づくり ばていお大門・TOIGOの設計に参加して 平成19年4月23日
講師/竜野 泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長〔一級建築士〕

第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日
講師/木田 勇さん 信濃グランセローズ監督

第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日
講師/萩原 健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト

第9回 トウガランの尽きせぬ魅力/「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日
講師/松島 憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授

第10回 命のバトンを渡す「ビオトープ」/長野市をビオトープネットワークシティに 平成19年11月14日
講師/松岡 保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授

第11回 簡単・おいしいオシャレ/わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日
講師/浜 このみさん クッキング・コーディネーター

第12回 あなたのからだは「築何年」ですか? 平成20年7月14日
講師/角本 浩二さん パランスアドバイザー 長野県健康管理士协会会长

第13回 アメリカ生活で感じたあれこれー変化に対して前向きになることの大切さー 平成20年8月19日
講師/針谷 友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)

第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方考える 平成20年9月16日
講師/水野 守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長

第15回 長野ハルセイロー優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日
講師/バトゥ・ピエイラ監督、薩川了洋コーチ、真富信宏キャプテン

第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日
講師/町田 良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事

第17回 地上の楽園は馬の音にあり 平成21年2月18日
講師/中山 修さん 中山法律事務所 弁護士

第18回 循環備蓄型の農業の実践***宇宙のリズムにあった農業で一次産業の再生を試みる*** 平成21年6月3日
講師/塩澤 研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役

第19回 郷土を包む「おやき」 平成21年7月14日
講師/小出 陽子さん (同)ふきっ子のお八起 代表 /信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー

第20回 信州の伝統から生まれる食文化ー漬物の新しい風ー 平成21年9月2日
講師/宮城 恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋

第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく! 平成21年11月24日
講師/志村 雅由さん NPO法人 飯綱高原よっころしよ 代表理事

第22回 JFL昇格に向けて 平成22年3月17日
講師/薩川 了洋さん AC長野ハルセイロ新監督

第23回 先人の知恵を受け継ぐ〜トチの実、雑穀、あんぽ〜 平成22年5月25日
講師/石次 一男さん (有)田舎工房 代表取締役

第24回 3度目でつかんだオリンピック出場 平成22年7月28日
講師/新谷 志保美さんバンクーバーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務

第25回 逃げないスケルトン〜夢と感動と勇気を〜 平成22年9月15日
講師/越 和宏さん スケルトン 競技3大会オリンピック日本代表 (株)システックス所属

第26回 Go to J〜Jを長野に〜いよいよ地域決勝大会!〜 平成22年10月25日
講師/鈴木 政一さん 長野ハルセイロ・アスレチッククラブ強化部長

第27回 グランドデザインの見点で「信州の食」を考える 平成22年11月30日
講師/千村 尚司さん 千村ブレイン代表・ソムリエ

第28回 ご利益のある町づくり 平成23年1月26日
講師/川崎 史郎さん フリーライター・市民記者ネット代表

第29回 防災と危機管理 平成23年6月1日
講師/安藤 長一さん 篠ノ井消防署署長、緊急消防援助隊長野県隊長(第二次派遣隊)

第30回 江戸のエコロジストー茶 平成23年8月30日
講師/マブソン 青眼さん 俳人・比較文学者

第31回 Waを生かしたまちづくり 長野はもっと元気になる 平成23年9月28日
講師/井上 裕子さん 信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員

第32回 メディアから見た長野 平成23年10月19日
講師/田幸 淳男さん 信越放送取締役相談役

第33回 旅の楽しさと長野の魅力で世界をむすぶ 平成24年1月31日
講師/飯室 織絵さん 観光客向けゲストハウス「1166バックパッカーズ」運営

第34回 神輿で街の元気を呼び覚ませ 平成24年2月28日
講師/相原 哲さん ながの町神輿連合会武蔵会 会頭

第35回 長野とオリンピックレガシー 平成24年3月26日
講師/小林 亨さん 日本オリンピック委員会(JOC)勤務

第36回 すべてが一丸となって「ながのの宝もの」をJへ 平成24年4月24日
講師/薩川 了洋さん AC長野ハルセイロ監督

第37回 信州の野鳥たち 平成24年8月31日
講師/小宮山 義光さん 日本野鳥の会長野支部会員

第38回 見る 学ぶ 体験する 自然農法 平成24年9月27日
講師/塩澤 研一さん 農業生産法人水輪ナチュラルファーム代表取締役/(財)いのちの森文化財団 副代表理事

第39回 善光寺表参道と中心市街地のWi-Fi計画 平成24年10月25日
講師/根田 達男さん NTT東日本 長野支店長

第40回 しなの鉄道長野以北延伸と営業戦略 平成24年12月6日
講師/山田 隆さん しなの鉄道(株) 専務取締役

第41回 自然との共生 平成25年2月28日
講師/藤岡 牧夫さん イラストレーター・絵本作家

第42回 花は人を育てる 平成25年4月9日
講師/矢澤 秀成さん 園芸研究者/ながの花と緑そして人を育てる学校校長

第43回 人と組織の笑顔の創造 平成25年5月31日
講師/近藤 京子さん カウンセラー/NPO法人「わくわく志事研究所」所長

第44回 信州の分水嶺 ～山と川と里～ 平成25年8月22日
講師/栗田 貞多男さん 写真家

第45回 長野市の魅力と不動産取引の発展性 平成25年11月20日
講師/鶴志田 明弘さん 野村不動産アーバンネット株式会社 企業不動産部専任部長

第46回 地域におけるバイオマス利活用について 平成26年1月29日
講師/天野 良彦さん 信州大学工学部物質工学科教授

第47回 AC長野ハルセイロー私のチームマネジメントについて 平成26年3月3日
講師/美濃部 直彦さん AC長野ハルセイロ監督

第48回 わたしにとつてのボランティア 平成26年4月16日
講師/丸田 勲さん 脚本・演出家 森の家 林りん館館長

第49回 金沢の未来と長野へのエール 新幹線で結ぶ金沢と長野の絆 平成26年5月26日
講師/浅野 邦子さん 株式会社 第一 代表取締役会長

第50回 取材を通してみた長野の魅力 ～長野をもっと元気に!～ 平成26年10月8日
講師/平沢 幸子さん 長野朝日放送 アナウンサー

第51回 チームマネジメント 平成27年1月19日
講師/本田 美登里さん AC長野ハルセイロ・レディース監督

第52回 本物のおもてなし ～加賀屋の経営理念とビジョン～ 平成27年3月17日
講師/小田 興之彦さん 株式会社加賀屋 代表取締役社長

第53回 地域の元気をつくる成長企業は、ここが違う!～地方の中規模企業が成功するための法則とは?～ 平成27年7月1日
講師/廣井 紀文さん 株式会社ディーテス 代表取締役社長

第54回 長野から宇宙へ! ～ローカル企業のチャレンジ～ 平成27年8月25日
講師/羽生田 豪太さん 株式会社羽生田鉄工所 代表取締役

第55回 食を通じて発見 知られざる長野の魅力! 平成27年10月8日
講師/中島 麻希さん 1級フードアナリスト

第56回 摩訶不思議!長野の神社の靈感の世界 平成27年11月17日
講師/齋藤 安彦さん 司宮

第57回 大河ドラマ「真田丸」の舞台裏 ～撮影を通して見た信州の魅力～ 平成28年4月2日
講師/屋敷 隆太郎さん NHKチーフプロデューサー

第58回 真田丸の時代を語る ～時代考証の舞台裏 平成28年7月2日
講師/平山 優さん 歴史研究者

第59回 寺町商家の運営で気づいた“食、の力” 平成28年8月30日
講師/西村 知子さん 寺町商家運営アドバイザー

第60回 地域から社会を変えよう!行動する人の集まる港CREEKS 平成28年11月11日
講師/広瀬 毅さん 株式会社CREEKS 広瀬毅建築設計室代表

第61回 長野ハルセイロー今シーズンの目指すチームづくり 平成29年3月13日
講師/浅野 哲也さん AC長野ハルセイロ監督

第62回 輝く女性の活躍で長野県の企業を更に魅力的に! 平成29年5月30日
講師/中島 恵理さん 長野県副知事

第63回 信州は橋の都 千曲川と犀川に架かる名橋/日本一美味しい「飯山のお米」 平成29年7月19日
講師/服部 秀人さん 信州・橋の日推進協議会専務理事/エコファーマー

第64回 少子高齢化時代の長野市を考える ～行政の政策現場から見えるもの～ 平成29年8月23日
講師/平尾 勇さん 長野県観光機構工セクティブ・プロデューサー(前松本市商工観光部長)

第65回 長野県を元気に! メンタルヘルス(心の健康)からの大きなヒント! 平成29年9月21日
講師/野池 裕子さん ダイヤモンド・セルブファースト 代表・講師

第66回 陶芸の楽しみ 平成30年3月23日
講師/愛甲 宏明さん 炭平コンピューターシステム株式会社 代表取締役社長

第67回 話すって難しい? 平成30年4月23日
講師/坂橋 克明さん フリーバー・ソナリティー

第68回 中世善光寺知来堂東向き 平成30年7月5日
講師/宮下 秀樹さん 株式会社守谷商会 執行役員、国立長野高等客員教授

第69回 これからの長野における大学教育 ～人生100年時代の生き方と学び方～ 平成30年8月23日
講師/金田一 真澄さん 公立大学法人 長野県立大学 学長

第70回 広域景観から見た善光寺 ～山岳信仰と他界意識～ 平成30年9月26日
講師/笹本 正治さん 長野県立歴史館 館長

第71回 劇場が街を変える 平成30年11月30日
講師/山本 克也さん 長野市芸術館 総支配人

第72回 早春のマンデー・ジャズ・ナイト 平成31年3月11日
出演/AO VIVO(アオ・ヴィーヴォ):竹内 浩一・中川 雅紀・山極おーじ優子・長谷川 裕晃・中野 寿寛

第73回 100年前に信州がめざしたのもー県歌「信濃の国」に垣間見る～ 平成31年4月25日
講師/山浦 直人さん 土木・環境などの技術支援センター理事、長野県立歴史館客員学芸員

第74回 人生に無駄なし! 平成31年7月18日
講師/松本 克幸さん 協栄電気興業株、取締役副会長



NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人
長野都市経営研究所

〒380-0834
長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp
e-mail:nupri@nupri.or.jp

わいがや サロン

通信

Vol. **75**
2019.9



NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人 長野都市経営研究所

第75回 「企業経営」～SDGsと求められる企業モデル～

講師／大室 悦賀さん 長野県立大学グローバルマネジメント学部教授／ソーシャル・イノベーション創出センター長

■座長：岩野 彰 場所／NUPRI事務所 9月25日(水) 18:00～20:00

2015年の国連総会で全会一致採択されたSDGs (SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS=貧困や飢餓の撲滅、気候変動への具体的な対策などを掲げた持続可能な開発目標17項目) をNUPRIの皆さんは自分事として意識し行動していますか？ 今、企業経営に求められることとは？

一昨日(9/23)、国連・気候行動サミットで16歳のグレタ・トゥーンベリさんが世界の現状・未来を憂い、「大人たちよ、いい加減にしてください！」と訴えました。私たちは子どもたちの前で恥ずかしくない選択をしているのか、全ての大人が真剣に答えなければいけません。

世界で、日本で今、何かが起こっている!?

ここ数年、イギリスに行った方からよく聞くのは、ホームレスに若い人が多かったということ。ダーウィン進化論(生物は絶えず生存闘争をしているので必然的に生存闘争で優位に立つものが生き残る=自然淘汰)は社会に大きな影響を与え、資本主義に繋がってきたわけですが、自然淘汰で片付けてよいわけがありません。それを裏付けるようにここ数年、米国トップ企業の経営者181人が株主資本主義との決別を宣言。ギャラップ調査では若者の51%が社会主義に賛成。一方、日本も労働生産性は先進国中、最下位、世界競争力ランキングは30位、平均賃金はOECD加盟35カ国中18位です。孫正義さんは「日本はもはや後進国である」と認める勇気を持つ」と述べています。

最近、ダーウィンの定説をくつがえす進化論が話題になっています。「文化が人を進化させた」と提唱するヘンリックの進化論です。文化は人の心や行動を操ることで人類の進化を方向付け、人間の進化も制度、テクノロジー、言語といった文化の産物の影響を受けて変化を遂げていく。多様な文化の交差点に進化があるとするならば、組織文化を大切に企業あるいは教育機関はイノベーションを創発しやすいということ。その好例がハーバード大学です。

1970年代にアメリカで生まれたNPOは、経営資源の不十分性やアマチュアリズムのために役割に限界が見えてきています。「政府」は官僚主義に陥り、「企業」は社会的課題の創出メカニズムを見ず、3者と密接な関係をもつ「地域」は住民の繋がりが希薄に。ここ20年の社会の閉塞感はこれら各セクターの限界がもたらしたものと いえます【図1】。世界で、日本で、今起きていることを経営者の皆さんは感覚的にとらえたほうがよいと思います。

SDGs／社会的課題の解決

SDGsに関しては、英国社会は脱プラスチック社会ですし、ドイツほかの国々で既に原発全廃に向かっているヨーロッパではそろそろ次の議論をしようという段階にあります。対して日本は2周遅れ。原発に依存し火力発電計画すらある上、何代にもわたって生活保護を受ける家族も増加しています。日本ではSDGsを阻害する要因(既得権、セクショナリズム、対症療法)が蔓延しています。「経済は企業が、社会問題は行政が」という二項対立に囚われた思考に留まったままなのです。長野に来て1年半になりますが、長野は何かにつけ行政に依存し、行政システムで解決しようとしているように見えます。公平であらねばならない行政が公共財を提供するという事は、場合によっては問題が悪化するまで待たねばならないこととなり、その結果、小さな社会ニーズに対応できない。企業はこれまで株主利益の最大化を図ることが目的でしたが、社会的課題の担い手になるべき時が来ている。経営者は創造的緊張をもって、自らのビジョン(ありたい姿=自分は何をしたいのか、会社は何のためにあるのか)と現実との乖離を創造的エネルギー源となすべきです。



おおむら のぶよし 1961年、東京都府中市生まれ。拓殖大学卒業後、企業、府中市職員を経て、法政大学(院)経済学修士、一橋大学(院)商学博士。2007年より京都産業大学経営学部講師～准教授～教授、18年より現職となり、長野・京都を拠点に各地を飛び回る

ソーシャル・イノベーション／日本・長野でこんな企業を育てたい。

ソーシャル・イノベーションの定義は「ビジネスを活用し社会的課題の解決をはかるための新しいサービスや製品、あるいはその提供の仕組み」のこと。社会的課題の根本的な解決は社会的課題を創出しないビジネスをすること。皆さんも知っている「パタゴニア」は、経済は持続的ではない。ゆえに責任ある経済を目指す。なるべく売りたいくない。しかし、我々が生活するうえでは自然に負担をかけざるを得ない。せめて、負担を最小限にする経済を目指す」として、「このジャケットを買わないで(DON'T BUY THIS JACKET)」という、広告を発信し、客は自分のマインドと矛盾しない企業を選び、支持して商品を購入します。

国内でも新しい企業モデルが若者の支持を得ています。石見銀山で有名な島根県大森町のベンチャー企業(中村プレイス・石見生活文化研究所)や、シングル女性向けシェアハウスを展開する一級建築士事務所秋山立花に共通するのは「働きたくなる企業」「地域の特性を担う企業」「地域の課題解決を担う企業」であって、持続的な経済を目指していること。結果、地域を元気にします。長野にも地元の特性や伝統を継承している企業があると思います。僕も長野に来たからには「長野を元気にする企業」を育てるお手伝いをすべく県内を走り回っています。

ここからが本題です。皆さんの会社は、どうあるべきかという理念に基づいたフラット型組織になっていますか？

哲学思考と芸術思考のすすめ

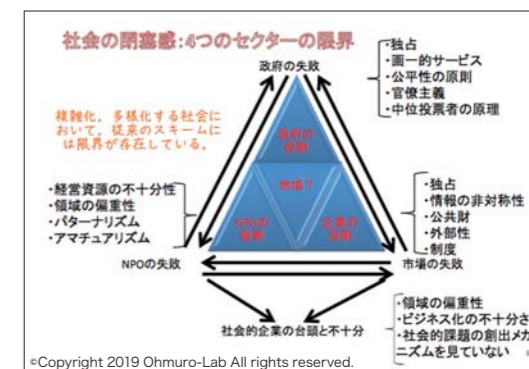
これまで社会を牽引してきたのはサイエンスですが、サイエンスだけでは複雑な社会あるいは未知の領域を捉えることはできません。システムが変化し続ける環境に適應するためには、環境がもつ多様度以上にシステムは多様度をもつ必要があり、その複雑性を担うのがスペース=空間/間。スペースには美意識や感性といったあいまいさが付き物で、誰も見えていない世界を模索しないといけない。そんなブラックボックスを紐解くのは〈セルフマネジメント=心の安定〉〈哲学思考〉〈芸術思考〉【図2】。新しい市場を創出している経営者の頭の中ではその3つが絶えず刺激し合っているはず。例えば、心の安定を図るための瞑想室をもつ会社が増えています(グーグル、IBM等)。哲学は見えてないものを論理的に捉える。アートは直感! まだ見ぬ未来が描かれることが多い。二足歩行ロボット・アシモを創ったホンダは、手塚治虫が未来を想像して描いた鉄腕アトムの実現を想像し、アシモを創造したビジョナリー・カンパニー。想像できていない世界は創造できない。「なぜ」を繰り返しながら、抽象度の高いビジョンをもち、そのビジョンの達成を支えるのは皆さんの哲学です。

海外では哲学を学んだ人が活躍しています。もし皆さんが会社を変えようと思っているならビジョナリーな哲学系や芸術系の採用をお勧めします。

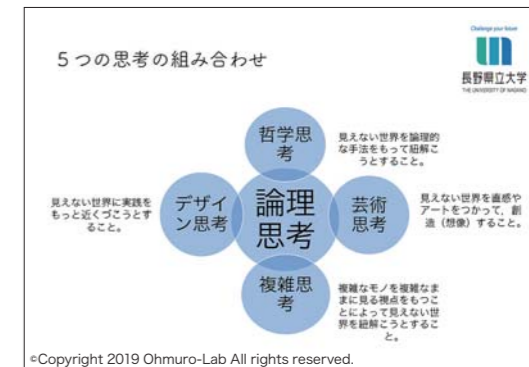
CSIが長野県で目指すモノ

長野県立大学CSIは日本中から集うイノベータープロフェッショナル、学生、教員、企業、行政機関等を相互に結びつけ、社会的課題を解決するための新しい商品やサービス、新しい仕組みの開発を目指しています。これまで小商いの支援(特に女性創業支援)やSDGsを前提としたコンサル人材の育成、信州ソーシャル・イノベーション塾の開催、地域コーディネーターの配置【図3】等の活動をしてきました。昨年度510件問い合わせがあり、本年度も昨年度とほぼ同様のペースで相談を受け対応しています。NUPRIの皆さんとご一緒できることがあればご相談ください。お声がけをお待ちしています。

台風15号による停電等被害が未だ解決しない時に開かれたわいがやサロン、講演後には「SDGsを本気で達成しなければ」「哲学・アート思考の話に合点がいった」等の意見が交わされました。



【図1】多くの人が感じている社会の閉塞感は政府・企業・NPO・地域の限界にある



【図2】哲学思考、芸術思考など5つの思考の組み合わせ



【図3】CSIの御用聞きは地域の人達の思いを結実させるサポート

